

7月15日豪雨の傷跡 市内各地で甚大な被害



はらんした可児川に押し流された多数のトラックや乗用車
国際航業(株)提供



土田地内の被災地を視察した菅総理



折り重なるトラック

7月15日夕方から降り始めた激しい雷雨は長時間に及び、市内各地で土砂崩れや河川のはらんなど予測を超えた被害をもたらしました。午後8時15分、市は全市民対象に避難勧告発令を決定。市内全域に避難所が開設され、多くの市民が避難しました。

この豪雨で土田地区では、可児川からの濁流によりトラック28台を含む多数の車が流れ、人的な被害も出るなどの大惨事に見舞われました。また、市内各地で床上・床下浸水の家屋被害をはじめ、道路や農林業にも大きな被害が生じました。

名古屋地方気象台によると、梅雨末期の特有的な南からの暖かく湿った空気が北からの寒気が流れ込み、梅雨前線にぶつかった結果、急激に雨雲を発達させて局地的な豪雨になったようです。

7月18日には、菅総理をはじめ、地元国会議員、古田県知事らが土田地内の災害現場を視察し、山田市長から被害の状況を聞き取りました。

現在も、捜索や復旧に向けて懸命の活動が行われていますが、復旧には時間がかかり、なお危険な場所もありますのでご注意ください。きますようお願いいたします。

詳細な情報は2ページ以降をご覧ください。